

## 幼稚園教育要領・領域に関する専門的事項「幼児と健康」の 授業開発に関する一考察

ーモデルカリキュラムの目標と「幼児期の終わりまでに育ってほ  
しい姿」に沿った鹿児島大学教育学部におけるシラバスの精査ー

福満 博隆\*・石走 知子\*\*

(2022年3月22日 受理)

Study on the Development of Classes for "Infants and Health", Specialized Matters regarding  
Kindergarten Education Guidelines:  
Syllabus scrutiny at the Faculty of Education, Kagoshima University, considering goals of the model

FUKUMITSU Hirotaka, ISHIBASHIRI Tomoko

### 要約

本研究の目的は、鹿児島大学教育学部において、新しく幼稚園教諭養成のための教職課程を創設するにあたり、幼稚園教育要領・領域に関する専門的事項「幼児と健康」に合致する講義内容を検討することである。そこで、鹿児島大学教育学部における「幼児と健康」の授業シラバス案を作成し、保育教諭養成研究会の示すモデルカリキュラムの全体目標及び到達目標と文部科学省の示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との照合を行い、講義概要（目的、内容、方法）や授業計画にこれらの内容が含まれているか検討を行った。その結果、幼児特有の健康や健康課題について、母子健康手帳の活用や、映像資料の活用、保護者へのインタビュー、実際の遊具を用いた運動遊び

---

\* 鹿児島大学 総合教育学域 総合教育学系 体育・健康教育部門 准教授

\*\* 鹿児島大学 総合教育学域 総合教育学系 体育・健康教育部門 准教授

など、多くのアクティブラーニング手法を取り入れた授業内容となり、モデルカリキュラムの全体目標・到達目標と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を十分網羅できることが示唆された。

**キーワード：**鹿児島大学教育学部、新教職課程、幼稚園教諭、モデルカリキュラム「幼児と健康」、幼児期までに育ってほしい姿

## 1 緒言

鹿児島大学教育学部では、新しく幼稚園教諭養成のための教職課程を創設するにあたり、新たに開設する「領域に関する専門的事項」に関する科目の準備を行なっている。この領域では、学問的な背景や基盤となる考え方を学ぶことを基本として幼稚園教育要領に示されているねらい及び内容を含めながらより幅広く、より深い内容が求められている。また、シラバス作成の際は、領域の内容に関わる授業担当者の専門性を生かしつつ、モデルカリキュラムの一般目標や到達目標を踏まえ、当該領域に関しての専門的な知識・技能等を習得できるように工夫し、主体的・対話的で深い学びとなるような過程を保証する授業を構成していくことが求められている<sup>1)</sup>。

領域に関する専門的事項における「幼児と健康」の科目を担当する筆者ら担当教員は、領域「健康」の指導に必要となる基盤的知識や基礎的技能を身に付けることを目指しながらモデルカリキュラムの目標に沿った本学部独自の授業開発を行いシラバス作成することが必要である。また、今回の幼稚園教育要領の改訂において「幼児期までに育ってほしい姿」が示されており、その10項目との関連性を踏まえた授業のねらいと内容の構成することで、幼児の発達を見通した幼少接続の視点についての理解を深めていくことにつながると考えられる。

一方で、モデルカリキュラムに示されている各到達目標の抽象度が高く、それぞれが一定の養成の方向性を示しつつも、教え手の裁量や解釈、力量に任されている部分があるという指摘<sup>2)</sup>も見られることから、授業開発においては、ねらいと内容の重要性や整合性とバランスを十分に検討していく必要があると考えられる。

そこで本研究では、領域「健康」における「領域に関する専門的事項」に関する科目としての「幼児と健康」の授業開発において、担当教員の専門性を生かしたシラバスを作成し、モデルカリキュラムの一般目標及び到達目標との関連性及び「幼児期までに育ってほしい姿」10項目との関連性を踏まえた検討を行うことを目的とする。

## 2 研究方法

まず、鹿児島大学のシラバス記入要項に基づき、筆者らの専門性から考案されたアクティブラーニングを取り入れた授業シラバスを提案する。このシラバス案を保育教諭養成課程研究会<sup>3)</sup>の示した幼稚園教諭養成課程の「領域に関する専門的事項：幼児と健康(1単位)」モデルカリキュラム(以下、モデルカリキュラム)(表1)と、文部科学省<sup>4)</sup>の示した「幼児期の終わりまでに育ってほし

い姿」(表2)に該当する部分を照合する。そして「授業概要(目的・内容・方法)・学習目標」、「授業計画」の観点から、その講義の妥当性について検討した。

表1 モデルカリキュラムが示す「領域に関する専門的事項：幼児と健康(1単位)」の全体目標と一般目標及び到達目標

授業名	幼児と健康	単位数	1単位
全体目標	当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。		
一般目標 及び 到達目標	<p>【幼児の健康】</p> <p>(1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。</p> <p>1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。</p> <p>2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。</p> <p>【体の諸機能の発達と生活習慣の形成】</p> <p>(2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。</p> <p>1) 乳幼児の身体発達の特徴を説明できる。</p> <p>2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。</p> <p>【安全な生活と病気の予防】</p> <p>(3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。</p> <p>1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。</p> <p>2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。</p> <p>3) 危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。</p> <p>【幼児期の運動発達と身体活動】</p> <p>(4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。</p> <p>1) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。</p> <p>2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。</p> <p>3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。</p>		

※ 一般社団法人保育教諭養成課程研究会：平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究より筆者一部改変

※ 一般目標は( )、到達目標は( )で示す

表2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」一覧

①	健康な心と体	幼稚園生活の中で充足感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。
②	自立心	身近な環境に主体的に関わりいろいろな活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思い巡らしなどして、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信をもって行動するようになる。
③	協同性	友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。
④	道徳性・規範意識の芽生え	してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性がわかり、決まりを作ったり守ったりするようになる。
⑤	社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。 遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとしていたりして、情報を取捨選択などして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。
⑥	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
⑦	自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、好奇心や探求心を持って思い巡らし言葉などで表しながら、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
⑧	数量や図形、標識や文字等への関心・感覚	遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりして、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。
⑨	言葉による伝え合い	言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。
⑩	豊かな感性と表現	みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようにする。

※ 文部科学省：幼児教育部会における審議の取りまとめ（2016.8.26）より筆者転記

### 3 結果

#### (1) 授業概要（目的・内容・方法）と学習目標について（表3）

本大学においては、シラバスに授業概要（目的・内容・方法）と学習目標を示す必要がある。まず、授業概要（目的・内容・方法）について述べる。授業目的であるが、幼児の健康に関する基礎知識や幼児を取り巻く保育環境も含めた健康課題を踏まえ、「モデルカリキュラム」で示された「幼児と健康」の全体目標に合わせて、領域「健康」の教育や指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする必要がある。また、授業内容としては、「モデルカリキュラム」で示された「幼児と健康」の4つの一般目標とこれらの目標を達成するための到達目標に即した授業内容とするとともに

に、幼小連続を念頭に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した学習内容とする。さらに、授業方法では、学生の主体的・対話的で深い学びとなるようにアクティブラーニングを取り入れ、身近で活用できる媒体（自らの成長記録がされた母子健康手帳・保護者へのインタビュー）を用いたディスカッションや幼児期運動指針のガイドブックと実際の外園遊具を活用した遊びとしての運動を用いた演習と振り返りから構成する。

次に学習目標であるが、授業を受けることによりどのような知識・能力が身につくかを示す必要がある。そこで、目標を大きく以下の3つに分けた。①乳幼児期の身体的・発達の特徴および基本的生活習慣について病気の予防の観点からも理解し、さらにこの時期における健康課題についてその対処としての教育や指導および社会資源の活用について理解することができる。②幼児の怪我や事故の実態からその発生要因とその防止策及び応急処置について理解し、遊び場面におけるリスクとハザードの違いを踏まえた安全管理に基づいて、幼児自らが危険を認知し、回避して安全な行動が取れるようになるための生活安全や交通安全の習慣を学ぶ方法について理解することができる。③幼児期が神経系の発達の敏感期であり、運動コントロール能力を育む時期であることを踏まえ、幼児期の運動発達の特徴について理解し、幼児が楽しく体を動かす遊びを通して、基本的な体の動きを身に付けるとともに社会性の発達や認知的発達が促されること、さらに遊びとしての運動の具体的なあり方とこれらを推進するための配慮事項について理解することができる。これらを学習目標とした。

表3 鹿児島大学教育学部「領域に関する専門的事項：幼児と健康（1単位）」のシラバス案

授業名	幼児と健康	単位数	1単位
授業概要 (目的・ 内容・ 方法)	<p>この授業の目的は、幼稚園教諭に必要な資質として、乳幼児期の健康に関する基礎知識を持つことが不可欠であることから、乳幼児を取り巻く養育・保育環境も含めた健康課題について理解を深めるとともに、乳幼児期の「健康」に関わる指導や教育に必要な知識・技能を身につけることを目的とする。</p> <p>授業内容としては、幼稚園教諭に必要とされる「健康」領域の指導や教育には、幼児の健康において幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の獲得に関する知識やアセスメントおよび促進要因としての遊びと運動や安全を守るための知識が不可欠であり、幼小連続を念頭に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した学習を行う。</p> <p>授業方法は、主体的・対話的で深い学びとなるように、身近で活用できる媒体（自らの成長記録がされた母子健康手帳・保護者へのインタビュー）を用いたディスカッションや、幼児期運動指針のガイドブックと実際の外園遊具を活用した遊びとしての運動を用いた演習と振り返りを用いた構成とする。</p>		
学習目標	<p>①乳幼児期の身体的・発達の特徴および基本的生活習慣について病気の予防の観点について、基礎的知識をふまえた上で理解し、さらにこの時期における健康課題についてその対処としての教育や指導および社会資源の活用について理解することができる。</p> <p>②幼児の怪我や事故の実態からその発生要因とその防止策及び応急処置について理解し、遊び場面におけるリスクとハザードの違いを踏まえた安全管理に基づいて、幼児自らが危険を認知し、回避して安全な行動が取れるようになるための生活安全や交通安全の習慣を学ぶ方法について理解することができる。</p> <p>③幼児期が神経系の発達の敏感期であり、運動コントロール能力を育む時期であることを踏まえ、幼児期の運動発達の特徴について理解し、幼児が楽しく体を動かす遊びを通して、基本的な体の動きを身に付けるとともに社会性の発達や認知的発達が促されること、さらに遊びとしての運動の具体的なあり方とこれらを推進するための配慮事項について理解することができる。</p>		

## (2) 授業計画について (表4)

## 1) 第1回：乳幼児期の身体的・発達の特徴について

第1回では、WHOの示す健康の定義<sup>5)</sup>については1年次「体育・健康科学理論」で学修しているため、乳幼児期の身体的・精神的・社会的健康とは何かについて考えを深められるような課題を提示する。必修知識ともなる乳幼児期の身体的・発達の特徴を学習するため、学生自らの育成過程が記録された母子健康手帳を活用し、乳幼児期の身体的・精神的・社会的発達について基盤的知識を確認し、そのアセスメント方法や社会的資源の活用方法も含めた学ぶことにより、基礎的スキルを身に付けられるようにする。また、乳幼児の映像資料を用い、視覚的にも学習が確認できるようにする。

到達目標番号は、(1)-1)、(1)-2)、(2)-1)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩と全項目に該当すると考えられた。

## 2) 第2回：乳幼児期の生活習慣の確立とその育成について

第2回では、学生自身の保護者や身近にいる乳幼児を育てる保護者へのインタビューを通じて、乳幼児期の生活習慣の傾向や、生活習慣がもたらす病気の予防、さらに、養育する保護者の養育方針や状況が及ぼす影響について学習できるようにする。そして、乳幼児の育ちと保護者の子供



や養育への思いを配慮できる教育や指導について、学生同士のディスカッションを通して考察できるよう構成することが可能であろう。

到達目標番号は、(2)-2)、(3)-1)、(3)-2)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩と、全項目に該当すると考えられた。

### 3) 第3回：乳幼児期の健康課題

第3回では、身近な乳幼児に関する「気になる姿」をあげ、KJ法もしくはボーンフィッシュ法を用いてその要因や背景について分析し、学生同士のディスカッションの中で乳幼児期の健康課題の解決に向けた教育や指導および社会資源の活用について、様々な方策を追求できるようにする。情報化・多様化する現代社会において、乳幼児にまつわる様々な「気になる姿」からみえる健康課題が挙げられると思われる。たとえば、乳幼児期の特性として性自認の芽生えが見られる時期（2歳頃から）であり、遊びの中にも社会性の発達による性別役割を含んだものが入り入れられるようになる。一方で、性同一性障害当事者によるデータでは56.6%が小学校入学以前に性別違和感を持ち始めるといわれている<sup>6)</sup>。性自認や性別役割を取り込む乳幼児期に、保護者や保育者の気づきや理解の姿勢が持てるような教育や指導の考察ができるであろう。

到達目標番号は、(1)-1)、(1)-2)、(2)-1)、(2)-2)、(3)-1)、(3)-2)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩と、全項目に該当すると考えられた。

### 4) 第4回：幼児期の怪我や事故の特徴と危険（リスクとハザード）

第4回では、幼児期の怪我や事故がどうして起こるのか、どうすれば防止できるのかについて学習できるようにする。幼児の怪我や事故の実態からその発生要因（物理的環境要因と人的環境要因）を身体的発達の特徴と関連付けながら考察し、その防止策と応急処置について学ぶ。そして、遊び場面におけるリスクとハザードの違いを踏まえた安全管理について、学生同士のディスカッションを通して考察できるよう構成することが可能であろう。

到達目標番号は、(3)-2)、(3)-3)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、①、④、⑤に該当すると考えられた。

### 5) 第5回：幼児の安全教育及び防災教育の重要性と危険予知及び回避行動

第5回では、幼児自らが危険を認知し、回避して安全な行動が取れるようになるための生活安全や交通安全の習慣を学ぶ方法について学習できるようにする。遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や物事などが分かり、安全について理解を深めるような教育や指導の考察ができるであろう。また、避難訓練や災害時に適切な行動が取れるようになるための知識と行動についても考察できるよう構成することが可能であろう。

到達目標番号は、(3)-1)、(3)-3)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧に該当すると考えられた。

### 6) 第6回：幼児期の運動発達の特徴

第6回では、幼児期が神経系の発達の敏感期であり、運動コントロール能力を育む時期である

ことを踏まえ、幼児期の運動発達の特徴について学習できるようにする。幼児期運動指針（文部科学省 2012）<sup>7)</sup> の指導のポイントとして挙げられている「多様な動き」の意味とそれを経験することの意義を運動発達の特徴と関連付けしながら考察し、その必要性についての理解を深めるとともに、「体の動きを調整する」ことは多様な場面において場に応じた動きができるようになり、自分の身を守ることに繋がることを理解して、この時期にふさわしい運動のあり方について学ぶ。そして、幼児期に身に付けた多様な動きが小学校以降の運動発達にどのような影響を及ぼすかについても考察できるよう構成することが可能であろう。

到達目標番号は、(4)-1)、(4)-2)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、①、⑤に該当すると考えられた。

#### 7) 第7回：日常生活における「多様な動き」の獲得や体力・運動能力の基礎づくり

第7回では、幼児期における身体活動の現状と問題点を理解し、幼児が楽しく体を動かす遊びを通して、基本的な体の動きを身に付けるとともに社会性の発達や認知的発達が促されることについて学習できるようにする。日常生活における基本的な動き（体のバランスを取る動き、体を移動する動き、用具を動かす動き）を通して、「多様な動き」を獲得し、体力・運動能力の基礎を育てるための教育や指導の考察ができるであろう。そして、楽しく体を動かす遊びが基礎的な体力や運動能力を発達させるだけでなく、他者との関わりを通して、コミュニケーション能力、やる気や集中力、社会性や認知的能力などを育む機会を与えることについても考察できるよう構成することが可能であろう。

到達目標番号は(4)-2)、(4)-3)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、①、②、③、④、⑤、⑩に該当すると考えられた。

#### 8) 第8回：遊びとしての運動と配慮事項

第8回では、遊びとしての運動の具体的なあり方とこれらを推進するための配慮事項について学習できるようにする。楽しく体を動かす遊びを中心に具体的な活動や教材の研究を深める中で、幼児の健康な心と体を育て、幼児自らが健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目指すためには、計画的に保育を構想し、幼児一人一人の特性に応じ、発達課題に即した教育力が求められることを理解し、必要な工夫や配慮ができる教育や指導の考察ができるであろう。

到達目標番号は(4)-1)、(4)-3)、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑩に該当すると考えられた。



表4 授業計画・授業内容と「モデルカリキュラムの一般目標及び到達目標」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

授業名		幼児と健康										単位数	1単位
授業回数	授業内容	モデルカリキュラムの一般目標及び到達目標番号	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
			健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形・模様や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現	
1	乳幼児期の身体的・発達の特徴 — 健康の定義と乳幼児期の身体的・精神的・社会的健康、乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達 —	(1)－1) (1)－2) (2)－1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	乳幼児期の生活習慣の獲得と病気の予防 — 乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得および病気の予防 —	(2)－2) (3)－1) (3)－2)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	乳幼児期の健康課題 — 乳幼児期の身体的・精神的・社会的健康課題 —	(1)－1) (1)－2) (2)－1) (2)－2) (3)－1) (3)－2)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	幼児期の怪我や事故の特徴と危険(リスクとハザード) — 幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置の基礎 —	(3)－2) (3)－3)	○			○	○						
5	幼児の安全教育及び防災教育の重要性と危険予知及び回避行動 — 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理 —	(3)－1) (3)－3)	○	○	○	○	○	○	○	○			
6	幼児期の運動発達の特徴 — 幼児期の運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の必要性 —	(4)－1) (4)－2)	○				○						
7	日常生活における「多様な動き」の獲得や体力・運動能力の基礎づくり — 社会の変化に伴う身体活動の現状と生活の中の動きの経験による効果 —	(4)－2) (4)－3)	○	○	○	○	○						○
8	遊びとしての運動とその援助 — 遊びとしての運動の具体的な在り方、またその配慮の基本的な考え方 —	(4)－1) (4)－3)	○	○	○	○	○	○	○				○

#### 4 考察

鹿児島大学教育学部の「幼児と健康」のシラバス案を作成し、「幼稚園教諭養成課程(幼児と健康)モデルカリキュラムの全体目標、一般目標及び到達目標」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を照合し分析したところ、全ての項目を網羅していることが確認できた。これらは幼稚園教諭養成教育と幼稚園教育と小学校教育との継続教育に欠かせない視点である。領域「健康」に関するねらいや内容は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目すべてと関連するといわれている<sup>8)</sup>ことから今回のシラバス案の妥当性は確保できたといえる。

まず、身体的・発達の特徴について、保育者が乳幼児の特性も踏まえてその成長を把握することにより、幼児が自分自身の体や健康に興味を持ち、これらに影響する生活習慣の獲得にも影響を及ぼすことが考えられる。生活習慣の獲得は乳幼児期の成長・発達のみならず病気の予防にも関連し、その促進要因ともなりえる。生活習慣については、とりわけ幼児の自らの気づきを保護者や保育者が促すことで、必要感や達成感、爽快感、満足感が培われると考えられることから、このような教育や指導が行えるように学生に学習させる必要がある。気づきを促される養育や保育を受けた幼児は、周囲の状況を自ら判断し、行動する経験を積み重ねていくことができる。このような「健康」に関する教育を提供することで、小学校生活において生活リズムや学習に臨む姿勢の安定にもつながり、小学校教科ともうまくつながっていくことを学生は理解できるだろう。

また、幼少期の運動経験は、体や運動機能の発達を促すのみならず、心の発達にも良好な影響をもたらす。楽しく体を動かす遊びを通して、幼児自らが健康で安全な生活を作り出す力を養うため

の工夫や配慮ができる教育や指導が行えるように学生に学習させる必要がある。幼児期の運動の教育と指導を工夫することで、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」に寄与し、小学校教科では「体育」だけでなく、「特別活動」、「道徳」「総合的な学習の時間」、「生活科」、「家庭科」等とも教科横断的に関連することになるだろう。幼児期の「多様な動き」の獲得は、新小学校学習指導要領<sup>9)</sup>の体育科に示されている低学年の内容「多様な動きをつくる運動遊び」、中学年の内容「多様な動きをつくる運動」につながっていくことも学生は理解できると考える。

さらに、安全については、幼児の怪我や事故の特徴とその防止策と応急処置及び危険に関するリスクとハザードの違いを踏まえた安全管理を行うことによって、幼児自らが危険を認知し、回避して安全な行動が取れるようになるための生活安全や交通安全の習慣の獲得に影響を及ぼすことが考えられる。幼児が遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や物事および標識などが分かり、安全について理解を深めるような教育や指導が行えるように学生に学習させる必要がある。これらの指導を幼児の発達や時期を考慮してバランスよく取り入れることで、小学校生活に向けて事故や災害時に自ら安全な行動を取ることができるような教育や指導が身に付けられると考える。

## 5 まとめ

鹿児島大学教育学部において、幼稚園教諭養成のための教職課程を創設するにあたり、「幼児と健康」の授業シラバス案を作成し、モデルカリキュラムの全体目標・到達目標と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を照合したところ、十分網羅できる授業内容であることが示唆された。しかし、現段階ではシラバス案が適合したに過ぎず、学生への教育を実施する中で不足や不必要な内容も出てくると思われる。今後は教育実践の中で学生の反応や効果をもとに評価して改善を図り、教育内容をさらに充実させることが可能となるよう授業開発を継続していきたい。

## 文献

- 1) 永田誠、玉江和義：幼児の健康な心と体を育てる領域「健康」に関する保育内容の検討、大分大学教育学部紀要、41(2)、pp207-218、2020
- 2) 入江慶太、荻野真知子ほか：幼稚園校育要領改訂に伴う保育内容領域「健康」に求められる授業内容に関する一考察－新しい教職課程におけるモデルカリキュラムとの比較を通して－、川崎医療短期大学紀要、38、pp85-89、2018
- 3) 一般社団法人保育教諭養成課程研究会：平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究－幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える－、3-2「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラム(1)幼児と健康、p11、2017
- 4) 文部科学省：幼児教育部会における審議の取りまとめについて、3-(2)幼児教育において育みた

- い資質・能力の整理と小学校教科との接続のあり方、pp4-5、2016、<https://www.mext.go.jp/b-menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/sonota/1377007.htm>（最終閲覧日：2022.3.21）
- 5）外務省：世界保健機関憲章、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000026609.pdf>（最終閲覧日：2022.3.21）
- 6）中塚幹也：性同一性障害と思春期、小児保健研究、75(2)、pp154-160、2016
- 7）文部科学省：幼児期運動指針ガイドブック第1章2 幼児期運動指針のポイント、pp7-11、2012、<https://www.mext.go.jp/amenu/sports/undousisin/1319772.htm>（最終閲覧日：2022.3.21）
- 8）保育教諭養成課程研究会編：幼稚園教諭養成課程をどう構成するかーモデルカリキュラムに基づいた提案ー、萌文書林、2017
- 9）文部科学省：【体育編】小学校学習指導要領解説、2017、[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/2019/03/18/1387017\\_010.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/2019/03/18/1387017_010.pdf)（最終閲覧日：2022.3.21）

## 幼稚園教育要領・領域に関する専門的事項「幼児と健康」の 授業開発に関する一考察

ーモデルカリキュラムの目標と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に沿った鹿児島大学教育学部におけるシラバスの精査ー

福満 博隆\*・石走 知子\*\*

(2022年3月22日 受理)

Study on the Development of Classes for "Infants and Health", Specialized Matters regarding  
Kindergarten Education Guidelines:  
Syllabus scrutiny at the Faculty of Education, Kagoshima University, considering goals of the model

FUKUMITSU Hirotaka, ISHIBASHIRI Tomoko

### Abstract

The purpose of this study is to examine the contents of lectures that match "Infants and Health", specialized matters related to the guidelines and areas of kindergarten education, in order to establish a new teacher's course on kindergarten licenses at the Faculty of Education, Kagoshima University.

Therefore, we prepared a syllabus plan for the "Infants and Health" class at the Faculty of Education, Kagoshima University, and compared the overall and attainment goals of the model

---

\* 鹿児島大学 総合教育学域 総合教育学系 体育・健康教育部門 准教授

\*\* 鹿児島大学 総合教育学域 総合教育学系 体育・健康教育部門 准教授

curriculum presented by the Nursery Teacher Training Study Group with the "Appearance of Growing Up by the End of Early Childhood" indicated by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Then, we examined whether these contents are included in the outline (purpose, content, method), learning goals, and lesson plans.

As a result, the contents of classes incorporating many active learning methods such as utilization of maternal and child health handbooks, utilization of video materials, interviews with parents, exercise play using actual playground equipment, etc. were proposed, suggesting that the model curriculum of the overall and attainment goals and "what we want you to grow up by the end of early childhood" can be fully covered.

**Keyword**: Faculty of Education, Kagoshima University, New teaching profession course, kindergarten teacher, the overall and attainment goals of the model curriculum, "what we want you to grow up by the end of early childhood"